

# [町史編さん室] 行政経営計画書（総括表）

## ■事務事業の総括

No.	事務事業名	様式 区分	R3 年度計画額（単位：千円）		R3 年度必要人工	
			計画額	内特定財源	職員	会計年度 任用職員
1	町史編さん事業	B	9,918	0	1	2
合 計			9,918	0	1	2

## ■特記事項

①上記の表の職員1名は、編さん室次長（専任）。

②上記の表以外の職員として、室長は生涯教育部長が兼務。  
ほかに、生涯学習課 主任（資料館学芸員）が兼務。

# 令和3年度 事業別行政経営計画書【B】

所属名	町史編さん室	No.	1
事業名	町史編さん事業		

## ■基礎情報

目的	町民の協力を得ながら、「先人の暮らし＝郷土の歴史と民俗」を調査・研究し、詳細な記録保存をして子孫に伝え残すとともに、郷土史の研究に資することを目的とする。
事務内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>・昭和10年刊行の『大口村誌』と昭和57年刊行の『大口町史』を参照しつつ、戦後から現在に至るまでの『大口町史～現代史編～』を刊行し、併せて町のホームページにアップする。</li> <li>・監修打合せ</li> <li>・編集委員会の開催</li> <li>・資料収集と整理</li> <li>・体験談の聞き取り調査</li> <li>・原稿及び体験談の受入れ及び編集</li> </ul>
現在における経過又は課題	<ol style="list-style-type: none"> <li>① 写真・図表・グラフを含む本編の原稿については、目次に基づいて、ひと通り作成したが、項目によって完成度に差がある。精査して、完成に近づける。</li> <li>② 今回の町史のメインが現代史であるため、原始古代から近代史までの記述を簡潔にまとめた。結果として、現代史に至るまでの歴史の流れがわかりにくいものとなった。見直しをする。</li> <li>③ 戦後の村政・町政について、詳細な記述に努めたがため、他の章・節で重複する記述が多く精査が必要となった。戦後の村政・町政の目次と記述を見直す。</li> <li>④ 生活史の中に、組合による広域行政の施策が入っているので、生活史と行政史が混在している。組合についての記述は行政史に移すなど、目次を見直す。</li> <li>⑤ 多くの体験談を得ることができたが、昭和と比べ平成の体験談が少ないので、必要に応じて聞き取りをする。また、記録がなく記憶（証言）に頼る項目において、証言が足りない項目もあるので収集に努める。</li> <li>⑥ 町史編さん事業の啓発につとめる。</li> <li>⑦ 個人日記は公に刊行しないこととしたが、町の資料として引き続き編集作業を行い、本編の記述に役立てる。</li> </ol>
令和3年度の目標又は改善策	<ol style="list-style-type: none"> <li>① 原始古代からの歴史の流れを記述し、政治史の記述を見直すなど、新しい町史の一層の充実のために事業の完結を令和3年度末から令和4年度末とする。</li> <li>② 令和3年度、1年かけて原稿データを充実させる。（出来上がった項目から順次、データを委託業者にわたし、印刷用データを完成させる）。</li> <li>③ 目次の再編成によりカテゴリーを明確にするとともに、多種多様な項目を記載し充実化する。</li> <li>④ 重複した内容を精査すること、寄せていただいた体験談を適切に掲載すること、話をうかがった事柄が適切に活用されているかを確認する。</li> </ol>

## ■ 第7次大口町総合計画に定める事項

総合計画の 体系	基本目標	第4章	人の知恵・技・情報が活きる元気コミュニティを創造する				
	基本政策	第1節	生涯学習の推進				
成果 指標							
R1 実績値	R2 実績値	R3 計画値	R4 目標値	R5 目標値	R6 目標値	R7 目標値	R8 目標値

## ■ 3年間の目標

目標	令和3年度末に印刷用データ（第1稿）の完成 令和4年度中に校正を重ねて、4年度末に刊行・ホームページにアップ					
項目（単位）	R1 実績	R2 計画	R3 目標	R4 目標	R5 目標	

## ■ 2年後、3年後の主な計画

年度	計画内容及び改善策等
R4 年度	紙ベースでの校正を重ね、年度末に刊行及びホームページにアップする。
R5 年度	

## ■ 作業工程（当該年度）

月	作業内容
4月～5月	教育委員会、議会に、町史編さん事業の完了年度の1年延長について説明し了解を得る。
4月～3月	編集委員会で、写真と図版を入れた原稿を検討し終わったものから、広く公開して意見を伺い修正する。完成したものから順次原稿データを業者に渡し、校正を繰り返す。
3月末	印刷用データの納品
年間	町史編さん事業の啓発及び情報収集

## ■事業コスト

		単位	R1 年度決算額	R2 年度当初予算額	R3 年度計画額
事業費		千円	4,057	12,904	9,918
(内特定財源)		千円	0	0	0
人工	職員	人工	1	1	1
	会計年度 任用職員	人工	2	2	2
	計	人工	3	3	3

## ■令和3年度計画特定財源内訳

(単位：千円)

特定財源名称	金額	備考(充当先等)
合計		

## ■令和3年度計画額の主な増減

(新たな取組、臨時経費、廃止項目等)

(単位：千円)

項目(科目等)	計画額	増減額	内容
著作物掲載使用料	40	40	新聞記事の引用及び紙面の掲載、絵画の所蔵先への掲載に係る使用料
聞き取り調査録作成業務	0	△98	皆減
資料解読整理	0	△548	皆減
町史印刷製本費	4,861	4,861	

## ■目標又は改善策に対する取組内容

- ① 令和3年度に、1年かけて原稿データを充実させ、大幅な修正が不要なレベルの印刷用データを作る予定であった。しかし、編ごとの完成にこだわり、第1編に時間をかけすぎたため、監修の指導により、令和3年11月以降は、編に関係なく節ごとに指導を受けるようにした。
- ② 町政については、当初は各町長の政策の特色を書くこと、昭和57年刊行の『大口町史』の記述に統計データを追加して記述することで町政の推移を表そうとした。しかし、この手法では平成以降の国政の様々な変化に伴う新たな町の施策が網羅できないため、役場内の部課局に協力を求め職員に原稿作成を依頼した。これにより、戦後からの継続的な政策の流れと、戦後から平成末までの町政の施策が網羅できる内容となった。
- ③ 監修の助言による項目の追加と、町政の施策に関する原稿の多様化により目次の再編成が必要になった。

## ■評価

令和3年度末までに、ある程度のレベルで印刷用データを完成させる予定であった。しかし、編ごとの完成にこだわったこと、新たな項目の追加、町政の施策に関して役場内の部課局に原稿を依頼して精度を徐々に上げていったことにより、時間がかかり印刷用データの作成が2割程度しか進まなかった。

## ■特記事項